



他単産との交流から学ぶ 北部労協学習交流会報告

9月30日～10月1日にかけて、さいたま市別所沼会館において、北部労協学習交流会が開催された。東京支部からも延べ4人の仲間が参加し、二日目から参加した東組織部長、早川青年部長から報告を受けたので掲載したい。

二日目は『若い労働者の組合活動に学ぶ』と題して、パネルディスカッションが行われた。北部ユニオンの西村さんの司会で始まり、パネラーとして早川青年部長、東京清掃、練馬区職労、全国一般から一人ずつ参加した。

【今は、昔みたいに、ここにハンコ押して…と、簡単には組合に入ってくれない時代】

➡清掃は、少数で入ってくるのでやりやすい。秋葉原の研修センター終わってオルグ、共済も含めオルグする。

他での経験者が多い為、事前に情報も入ってくるので飲み会をやり勧誘する。

➡社友会に加入してから職場に入ってくる。組合に対して良いイメージを持っていない。入社式でティッシュ、ボールペン等配るが、会社から受けとるなど言われている。東労組を抜け仲の良かった先輩がいたのも加入のきっかけになった。



➡新入社員歓迎会 研修リストもらって、組合に入っていない人に職場にアポをとり組合説明会を行っている。

経験者採用の中には、以前、組合に入っていてイヤな思いをしたという方もいる。家庭と労働運動の両立は大変だが、入るきっかけは、みな一緒に保険みたいなもの。

➡中小企業は、残業やっても9割以上出ない。そこからが労働組合の役割だと思う。

➡主体的に自分の職場の事を考えてもらえるよう意識付けしていかないといけない。

➡執行部定数14名に対して7名しかいない。つらそうな様子を見せないと、自分が頑張るしかない…と思っている。

➡私は、つらそうな様子を見せている方だが、会議や動員も先輩が手伝ってくれているので助かる。

➡少ない動員費より、残業代の方が金になるという考え方は若い方には現実的。

【若手が入りやすい環境をどうつくるか】

➡組合に入ったらまず沖縄に行かされるという感覚。やはり、第一に職場の事がないと駄目。

組合に対するイメージが年配者と若い人とすれ違いがある。

➡若い人にとっては、20～30歳も離れている先輩に説教されている感覚がある。そういうギャップもあり、私も当

時の委員長、書記長と話さなかった。理解しているだろう…のテイで話をされても分からない。特に組合的な専門用語で話されると困る。(単組)って何だ…って感じ。学生運動とか経験もしていない世代だし、組合に入りやすい雰囲気作りが大事。

- ➡脱原発…動員指示も上から下に降りて来ていない。反戦も僕らがやるんですか…っていう感覚。
- ➡まさしく、自分達の職場が改善出来ていないのに…理解してもらうのも大変。有給休暇の問題等…野党を応援して下さい…と訴えて、政治を変えていくしかない。
- ➡身近な賃金問題から入った方が分かりやすい。
- ➡組合に入る事へのメリットや逆に入らない事へのデメリットも感じていない。
- ➡イヤな事があつたらいつでも辞めるんで…と、カードを切る選択肢をいっぱい持っている。組合の機関紙も配った直後にリサイクル。
- ➡なぜ、そこまでして会社を良くしないとイケないのか？と思っている人いる…そういう素朴な疑問からいかに労働組合の役割を伝えていくか課題。

JALの労働者と連帯して闘おう

10月2日、第2回JAL不当解雇撤回闘争支援東京連絡会準備会が開催された。講師にジャーナリストの竹信三恵子さんを招き「個別労組を超えた労働運動の必要性」と題しての講演を受けた。一部を紹介したい。

1、そごう西武スト、ABCマートの一人ストはなぜ生まれたか

- ・そごう西武ストの背景にあった、外資による強硬な買収、反対する社長を解任し、新たに取締役を6人送り込んで過半数をとった。＝新自由主義の強引な手法
- ・百貨店が持つ文化的価値の無視、大手量販店（ヨドバシカメラなど）の一方的な導入に多くの社員からの反発があった。
- ・本店からブランド品が撤退することは、地方の支店からも撤退すること、と委員長が全国行脚して訴える。同時に百貨店業界の存亡の危機を訴え、同業他社と共有して支援を勝ち取る。（三越や伊勢丹など）
- ・豊島区も文化都市として、この間の都市計画に影響が出るとして労組の取り組みに理解を示す。
- ・マスコミもこの問題を大きく取り上げた。

2、ABCマートの一人ストの背景

- ・一人のパート女性の賃下げへの疑問から生まれた。ユニオンに相談し「賃下げの撤回だけではなく、物価高なので賃上げも勝ち取ろう」と助言を受ける。
「物価高なのに私は賃下げです」と会社の前で訴える。マスコミが珍しいので飛びつく。当初会社は全パート社員の2～3%の賃上げを回答したが、本人は「そんなもんだったら私はもう一度ストをやります」と会社に訴え、最終的には6%の賃上げを勝ち取った。
- ・コロナ禍以降、全国各地で非正規春闘をつくる動きが出始める。

この二つのストは、まずアピールすること。どういう人たちに訴え、誰を味方につけるかがハッキリしていた。そしてメディアまでも味方につけた。

3、これからの労働運動

- ・自分たちの運動にどういう人たちがかわっているか、リストアップする。日本の労働組合は企業内組合が多い。企業内だけの運動だと弱者になる場合が多い。そこをどう広げるかが重要。
- ・賃上げを勝ち取るには労働三権を行使するしかない。今回のストは悪いイメージがない。
- ・これからは非正規社員も含めて組織していく必要がある。